



保護者会通信

2016年(平成28年)2月10日 NO.14

編集・発行

京都ノートルダム女子大学
保護者会事務局

〒606-0847
京都市左京区下鴨南野々神町1
TEL:075-706-3700
FAX:075-706-3707
e-mail:hogoshakai@notredame.ac.jp

会長挨拶

京都ノートルダム女子大学保護者会
会長 赤井 悟



向春の候、保護者会のみなさまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、保護者会の活動にご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

この3月、私の娘は京都ノートルダム女子大学を卒業することになり、それに伴い私も保護者会会長を退任させていただくことになります。一年という短い期間ではありましたが、芹田 健太郎学長、大槻 秀明事務局長をはじめとする大学関係のみなさま、保護者会役員、理事、評議員のみなさまに支えられ、任務を続けることができました。衷心よりお礼申し上げます。

思い返しますと4年前、当時の保護者会会長 北村 茂樹様から電話があり、「入学式に参加していた保護者から匿名の推薦があった。評議員になっていただけないか。」とのこと、私たち夫婦も娘も知り合いの中での入学式でしたので、どなたからの推薦かなと思ひながら、評議員ならとお引き受けいたしました。推薦いただいた方は、いまだにわかりません。

このようなことがきっかけで、保護者会とご縁をいただいた私でしたが、それから4年の間にたくさんの出会いがありました。さまざまな方々とお話をいたしました。保護者会は、その会則に「本会は、京都ノートルダム女子大学の教育方針にのっとり、大学の発展と教育目的達成のために協力するとともに、会員相互の親睦をはかることを目的とする。」と定めております。すべての事業はこの目的のために行っているのですが、その根底にありますのは、会員同士がつながること、保護者会の運営に携わる者が、明るく楽しく活動することだと考えております。何かの折に、娘さんの友だちの保護者の方と連絡をとられてはどうでしょうか。たとえ居所が遠方でありましても、娘さんを共通項にいつながりができると思ひます。さらに機会がありましたら、保護者会の行事のお手伝いをしていただけませんか。たくさんのいい出会いがあると思ひます。

今後とも、保護者会会員のみなさまの変わらぬご支援をお願いいたします。京都ノートルダム女子大学とその保護者会のますますの発展を祈念いたします。ご挨拶とさせていただきます。

学長挨拶

京都ノートルダム女子大学
学長 芹田 健太郎



保護者の皆さまお元気でいらっしゃいますでしょうか。平素は本学のために格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、先号で昨年7月22日に大学として、創立50周年を期してのキャンパス整備事業の完成式典を行い、式典当日は、大塚直直カトリック京都司教による北山キャンパス祝別が行われ、祝福式のみことばとして、「新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れなければならない」をお選び下さったこと等をご報告させていただきました。

その後、一昨年の夏に初めて東南アジア・東アジアカトリック大学連盟(ASEACCU)の国際会議に学生を派遣しましたが、昨夏はインドネシアの中部ジャワの都市スマランにある Soegijapranata Catholic Universityに学生2名と職員1名を派遣しました。8月24日に出て同31日に無事に戻ってきました。日本からは、聖心、白百合、清泉、藤女子のほか、上智、南山でした。今回のテーマは「カトリック高等教育と宗教の共生(Religious inclusiveness)」でした。事前に、数名の参加希望学生たちと勉強会を行いました。インドネシアの政治、経済、教育のこと、キリスト教のこと、イスラム教徒が90%以上なので、イスラムのことを勉強しました。その中から、いずれも英語英文学科の3回生の2名を選出しました。彼女たちは帰国後報告書を書き、ND祭で報告をしました。私も参加し、彼女たちと会議のことなど話をしました。1期生の同窓も参加下さり、嬉しいことでした。

inclusiveは共生と訳しました。ご存じのように、exclusive(排他的)の反対語で、包摂の意味ですが、教育分野では inclusive education を「分けない教育」と訳しているようです。いずれにしても、インドネシアは、イスラム教徒、キリスト教徒、仏教徒、ヒンズー教徒と多様な信仰者がいます。単に寛容というだけではなく共生に思いを致したいと思っております。参加学生たちはとてもよい経験をできたようです。

大学は、現在、生活福祉文化学部と心理学部を一学部に再編し、少子高齢化社会の抱える諸課題に対応できる女性たちを育てる、現代人間学部(仮称)を来年4月に発足させる予定で構想中です。本号が皆さまのお手元に届く頃には文部科学省へ申請できているかと思ひます。これまで両学部にまたがって行われてきた幼稚園・小学校教諭、保育士の養成に加えて、京都の女子大では初めての特別支援学校教諭の養成も行う「こども教育学科」を新設し、国家資格となる公認心理士にも対応できる新「心理学科」、男女とも平均寿命が80才を超える長寿社会における衣食住やライフデザインを考え、福祉社会に対応する「福祉生活デザイン学科」の3学科です。残る人間文化学部も1年後には続く予定です。新しい革袋を作り、教育力を高めて、知性と品性に溢れる女性を世に送り出したいと思っております。なにとぞ、本年もお力添えをよろしくお願いいたします。

平成27年度

ND祭のご報告

平成27年10月24日(土)、25日(日)の2日間のND祭におきまして、保護者会は、25日(日)にユージニア館304教室でバザーを開催、24日(土)、25日(日)の2日間に保護者会初の試みとして模擬店を出店致しました。

バザー寄贈品につきましては、6月の保護者会総会、9月に発行致しました保護者会通信でご協力をお願いしたところ、保護者の皆様、教職員の皆様より多くの寄贈品を頂戴致しました。また、毎年ご好評頂いておりますマドレーヌや、しそキックも準備致しました。

当日は、関係者の皆様だけでなく、大学近隣の方々にも会場に足をお運び頂き、盛況のうちに終える事が出来ました。

また、模擬店では「きつねうどん(200円)」と「かやくご飯(100円)」を販売致しました。ND祭実行委員の説明会に参加し、理事会で試食会なども実施致しました。

当日は、テント下で学生達と一緒に声を掛け合っ、大きな声で呼び込みをしたり、イベントを見学したり、まるで学生に戻ったような気持ちで役員全員楽しく過ごす事が出来ました。役員以外の保護者の方のご参加もあり、本来の目的である親睦を深めるという点において、十分に意味のある2日間だったと実感しております。

最後になりましたが、バザー寄贈品のご協力を頂きました皆様、準備段階からご尽力下さいました保護者会事務局の皆様にご心より御礼申し上げます。また、このような機会を与えて下さった事に感謝いたします。

なお、今回の収益金は、学生支援活動である「100円朝食」の運営費用に充当させて頂きます。

(保護者会H27年度バザー実行委員長 阪口 美紀)



ND祭バザー等 収益金のご報告



本年度のND祭バザー・模擬店の収益金は合計で109,091円になりました。

この収益金につきましては、保護者会が主催して実施しております「100円朝食」の補助金として、保護者会予算の「学生支援助成費」へ充当させていただきました。

「100円朝食」は本学学生食堂にて、朝食セットを100円で提供することで学生の健康的な食生活を応援したい、との親心から本年度より本格スタートした事業です。

具体的には1食300円の食事代のうち、200円を保護者会予算から支払う形で補助しております。早起きは三文の得で朝の時間限定、早い者勝ち30食限定での提供ですが、ほぼ毎日完売しており、特に親元を離れ1人暮らしをしている学生たちの食生活改善のために、ささやかではありますが役立っているようなら嬉しく思います。

朝ご飯を食べ
規則正しい生活リズムを整えよう！



平成27年度 地区教育 懇談会報告



平成27年度地区教育懇談会は大学との共催により、10月3日(土)京都会場である本学で開催いたしました。尚、予定しておりました地方会場での開催は、都合により中止とさせていただきます。

当日は学長、保護者会会長挨拶のあと、各学部・学科の教員が個別に成績・修学相談に応じました。また、就職相談にはキャリアセンターの職員が、生活相談には学生課の職員がそれぞれ個別に対応いたしました。

参加された保護者の方々からは「不安に思っている点を教員や職員に直接相談できてよかった」「十分な時間をかけて留学や進路の相談ができた」等のご感想を頂戴いたしました。

教育懇談会は保護者会行事として毎年秋頃に開催しております。

保護者の皆様方にはこのような機会に、少人数教育ならではのサポートの良さを是非とも実感していただきたいと思います。

ご参加いただきました保護者会の皆様のご協力、ありがとうございました。

Menu

基本メニュー



ご飯とお味噌汁
おかず小鉢2品

毎週火曜日はパンの日



ロールパン+コンソメスープ
おかず小鉢1品



平成28年度

100円朝食 のご案内

【実施予定】

前期 4月8日(金)～7月29日(金)
後期 9月26日(月)～1月30日(月)

限定50食でスタート
(5月からは限定30食)

学生食堂にて・本学学生対象

OPEN
朝8:30
～10:45

(変更はその都度告知いたします)

100円朝食は保護者会主催・
マルタマフーズの協賛で提供します

キャリアセンター便り

キャリアセンター所長 生活福祉文化学部 萩原 暢子



保護者会の皆様には、平素よりキャリアセンターの取り組みにご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。本年度は就職活動の開始が遅くなったために、例年のように保護者会総会で内定者の話が聴けなかったのが残念というお声がありました。そこで、今回は、就職内定者の声と、就職活動の現状、現時点での内定状況およびキャリアセンターの取り組みをお知らせいたします。

就職内定者の声

地元信用金庫の内定をもらった学生からの声です。

「3年次の2月半ばから学内の企業説明会に参加し、3月から合同説明会に参加し始めた。その後も就職サイトに会社を探して、様々な会社の説明会に参加した。自己PRの内容は、自分がどれだけ地元が好きで、活性化のために必要なのか、自分は何かできるかというのを伝えた。また、企業の中で金融を選んだ理由、金融の中でもこの信用金庫を選んだ理由を順序立てて論理的に話すことを心がけた。つまり、これは、なかなか内定がもらえなかったこと。集団面接でも、他の人の自己PRを聞いて自信がなくなった。それで、キャリアセンターで一度くらい面接に行った。面接をしてもらううちに、自分が重視するポイントや軸が分かってくるため、是非活用すると良い。3月上旬に地元で開催された合同説明会に参加。3月下旬から会社説明会、4月から面接が始まり8月上旬に内定をいただいた。一つ一つの質問に正確に簡潔に答えられるように心がけ、面接全体でアピールできるようにした。また、今まで取り組んだ内容だけでなく、取り組んでいて何を学んだのか、どう活かせるのかを伝えるようにした。就職活動では、体調管理と共に精神的余裕を持つことが大切だと思う。それと、ここだけは譲れないという軸を持てれば、最終的に納得のいく就職活動ができると思う。」

最後に、保育士として内定をもらった学生からの声です。

「公務員試験を受けることに決めたので、4、5月に2回就職セミナーのグループ面接講座に参加した。試験日は6月末に公開されたので、7月はキャリアセンターに通って個人面接の練習をした。結果的に2次で不合格となったが、ちょうどもう一つ希望していた園から求人票が届いたので、気持ちを切り替え採用試験を受けた。自己PRでは、主に保育の勉強や実習での取り組みなど、具体的な経験を交えて伝え、自分の強みを保育にどう生かしていくのかも繋げて話した。採用試験や大学の定期試験、卒業論文の課題が重なってバタバタしたので、時間があるうちに自己分析や履歴書の作成など、出来ることから少しずつ進めていくことが、余裕を持った行動に繋がると思う。」

現時点での内定状況

11月から12月にかけて、4年次生にとっては卒業のために乗り越えなければならぬ卒業論文の作成があり、就職活動は一旦休止して論文の作成に専念する必要があるという状況です。現状です。卒業生は55・7%で、微増という結果です。卒業までに内定を目指すために、活動中の4年次生には、キャリアセンターに足を運んでいただき、相談してほしいです。

キャリアセンターでは、まだ就職先が決まっていなかった学生に対し、各学科のゼミ担当教員を通じて個別に働きかけ、キャリアセンターの活用を促しています。また、キャリアセンターから、直接電話し、就職活動の様子を尋ねて個別対応したり、企業を招いて採用面接を含めた説明会を行って、積極的に就職への道筋を付ける努力をしています。

キャリアセンターの取り組み

キャリア教育の一環としてのキャリア形成ゼミでは、「旅行プランナーゼミ」「フรายダル業界ゼミ」「町づくりプランナーゼミ」「編集・出版業界ゼミ」が活動を進めており、1月には成果報告会を行いました。ブライダル業界ゼミでは、12月に「学内模擬挙式」を実施しました。初めての試みですが、これまで学んだ企業での取り組みを、自分たちで企画し実行する中で学びは、教室では得られないものだと思えます。

今年度は企業への就業体験を行うインターンシップに参加する学生が増えたのですが、新たに1・2年次生対象の「社風発見インターンシップ」早春編という滋京奈地域インターンシップ推進協議会のプログラムに、本学の学生が9名参加しています。このように、早くから就職活動に積極的に取り組み、自分らしく生きるための働き方を見つけてよう、努力する姿が見られるようになってきています。

おわりに

学生の夢を実現させるのは学生自身ですが、私たちキャリアセンターで、できる限り支援させていただきたいと思っております。厳しさの中にも、暖かさのあるキャリアセンターを目指しております。これから、ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



「9年ぶり総合優勝の快挙」

カトリック女子大学総合スポーツ競技大会 学生課長 梅村 倫子



京都ノートルダム女子大学（総合優勝）

去る11月28日(土)、29日(日)の両日、ノートルダム清心女子大学(岡山市)を会場校として第15回カトリック女子大学総合スポーツ競技大会が開催されました。

この大会は聖心女子大学、ノートルダム清心女子大学、本学の3校を中心として、カトリック系女子大学5校が、バスケットボール、バドミントン、硬式テニス、バレーボールの4種目において交流戦を実施するものです。

昨年度は総合第3位の成績でしたが、今年度はみごと9年ぶり2度目の優勝という快挙を成し遂げました。学生数が2000名を超える両校を相手に、ここ数年は優勝を手に入れることが出来ずに悔しい思いをしてきましたが、この競技大会を1つの目標として1年間努力したことが良い結果となって表れたと大変喜んでます。

課外活動は人間形成の上で大変有益であることは周知のとおりですが、最近では大学生を取り巻く環境も変化してきており、多様な価値観の中で多様な人間形成の場を経験することができるようになったため、課外活動の参加者が減少の傾向にあります。また、保護者の経済的負担を軽減するためにアルバイトをする学生が多くなっていることもあり、なかなか課外活動が活発にできないという現実があります。その中で、毎年、保護者会からいただいている課外活動助成金は、課外活動に伴う学生の経済的な支援となり、学生への大きな励みとなっています。

競技大会では、闘志を漲らせ、負けると悔し涙にくれる場面もありましたが、試合が終わると相手チームと記念写真を取り合ったり、連絡先を交換したり、再会を約束するほほえましい光景が見られました。

1日目の終わりに立食ブッフェ形式で懇親会が開催されましたが、本学の学生は他大学のスピーチの場面では食事の手を止めて、熱心に傾聴するなど終始立派な態度でした。一緒にプレーした友人を尊重し敬意を表すその態度は、思いやりに溢れるものであったと同行した職員は感激していました。本学代表としてスポーツ競技大会へ参加した経験が、学生達の更なる成長へとつながっていくことを確信しました。

毎年、学生部長と学生課スタッフ、クラブ顧問が同行していますが、一昨年の本学開催以来、芹田学長が同行されて温かい応援を送ってくださることも選手の士気を高めた要因の一つであったのではないかと思います。

来年は本学が会場校となり第16回大会が開催されます。3年前には総クラブ所属のすべてのクラブがボランティアとして参加し、「京のおもてなし」をテーマに楽しい企画をしてくれ、参加者にご満足いただきました。次回も参加者全員が楽しく良い思い出を作れるような大会にしたいと考えています。

今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



硬式テニス部(2位)



バレーボール部(2位)



バスケットボール部(3位)



バドミントン部(優勝)

「キャンパス整備計画終了の後に」

事務局長 大槻 秀明

2015年のキャンパス整備が終了し、7月15日に整備完了記念式典を終えて、新装なったキャンパスでは様々なイベントが行われ其々が活気を呈しました。8月1・2日から5回のオープンキャンパス、同8日には杉子女王陛下をお迎えして「教育セミナー関西2015」、9月15日にパチカン市ユニセフ代表部大使のMsgr.フランチェスコ・フォロ大使をお迎えして「御堂懇話会」、10月4日にはがん患者やその家族を支援する本学での10時間のリレーウォーク「リレーフォーライフ2015 京都ノートルダム女子大学」の開催、同24・25日は恒例の「ND祭」を噴水の中庭やキャンパスストリートなどを十分に活用して開催しました。

11月27日「ノートルダムクリスマスイルミネーション点灯式」12月16日の「ノートルダムクリスマス」の日には清州島から農星女子高等学校の校長や生徒たちの来学、などなどの外、「京都地区私立大学経理担当者会議」や「京都地区私立大学総務担当者懇談会」の外にも各種学会の総会や研究会の開催など新キャンパスを活用して実に様々なイベントが開催されました。これらのイベントの参加者の多くから、コンパクトだが清潔で綺麗なだけでなく快適な教育環境となっているなどの良い評価を沢山いただきました。

これからも、本学学生たちのために快適で学習効果の高い素敵なキャンパスを維持していくとともに、より改善に努めていきます。保護者会のご理解をいただけますようお願いいたします。



リレーフォーライフ2015

